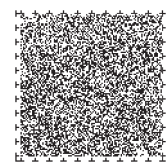


令和2年度

ふくおか 共助社会づくり 表彰

NPO・ボランティアと
多様な主体が
知恵や力を持ち寄った
取組を紹介



はじめに



福岡県知事 小川 洋

福岡県では、NPO・ボランティアや企業、行政などが共に知恵や力を出し合い、支え合う「共助社会」の実現に向け、さまざまな取り組みを行っております。

平成20年度から実施している「ふくおか共助社会づくり表彰」は、こうした共助社会づくりの推進を目指し、地域課題を解決するサービスの担い手として、さまざまな分野で活躍するNPO・ボランティアと、企業、行政などによる協働の取り組みを表彰するものです。

有識者による選考の結果、13回目となる今年度は、5件の取り組みを表彰する運びとなりました。聴覚障がい児・者や不登校児童・保護者の支援、芸術文化振興、若者の活動拠点づくりといった取り組みに対し、NPO・ボランティアと企業や行政などが協働して、それぞれの強みを生かしながら活動を行っており、いずれも着実に成果を上げています。

受賞された団体の活躍の場がさらに広がるとともに、この表彰が、NPO・ボランティアと多様な主体による協働の活発化と、これからの本県の共助社会づくりに寄与することを大いに期待します。

受賞取組・団体一覧 (5件21団体)

聞こえないってどんなこと～手話で楽しくコミュニケーション ……3

聴覚障害教育支援NPO法人言葉の森くろめ/福岡県立久留米聴覚特別支援学校/久留米市

筑後地域における文化振興「九州クリエイターズマーケット」 ……4

特定非営利活動法人芸術の森デザイン会議/一般社団法人山門青年会議所

不登校や子育てに悩む保護者支援“Omimi（おみみ）”事業 ……5

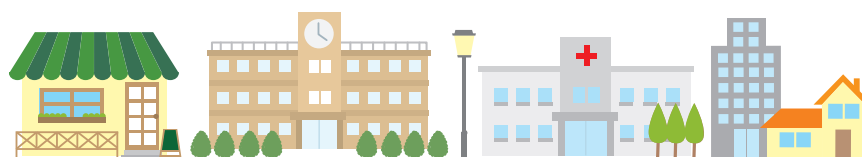
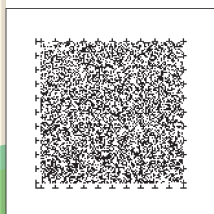
えがおの会/小倉東地区自治会/一般財団法人九電みらい財団/
一般財団法人グリーンコープ生協ふくおか福祉活動組合員基金/
春日市人権男女共同参画課/春日市教育委員会

コワーキングスペースの創出で商店街をつながる居場所に！ ……6

一般社団法人こがみらい/麻生建築&デザイン専門学校/
株式会社デザインネットワークアソシエイツ/有限会社フィーンズホーム/
株式会社ナダヨシ/頂味本舗/くまや蒲鉾株式会社

学校に行きづらい子・社会に出づらい人の自立支援 ……7

特定非営利活動法人 フリースペース よつば/久喜宮地域コミュニティ協議会/
東峰村教育委員会



ふくおか共助社会づくり表彰について

◆ 表彰の趣旨

この表彰は、NPO・ボランティアと企業、行政などによる優れた他の模範となる協働の取り組みを表彰し、NPO・ボランティア、企業その他団体の公益的活動を促進するとともに、NPO・ボランティアの社会的な信頼性を高め、本県の共助社会づくりに資することを目的に行っています。

◆ 対象となる取り組み

表彰の対象となる取り組みは、NPO・ボランティアが、企業、行政その他団体と、地域の課題を解決するため、互いの特性を生かしながら、協力して行う協働の取り組みです。

NPO・ボランティア団体には、NPO法人及びボランティア団体の他、公益社団法人・公益財団法人、一般社団法人・一般財団法人が該当します。

◆ 表彰する取り組みの決定

応募があった取り組みの中から、外部有識者を中心に構成する「ふくおか共助社会づくり表彰選考委員会」の選考を経て決定します。

【審査基準】

1 協働の効果

各団体が明確な役割分担のもと、それぞれの特性を生かすことで相乗効果が生み出されているか

2 社会貢献性

現状・課題の把握や解決に向けた手法が的確で、地域や社会に公益性の高い成果が生み出されているか

3 創意性

専門的な知識や地域の特性を生かすなど、創意工夫のある取り組みであるか

4 継続性・発展性

取り組みの継続や他への波及効果など、今後の広がりが期待できる取り組みであるか

5 特記事項

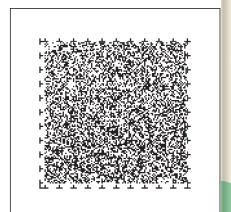
そのほか特筆すべき優れた点があるか

◆ 表彰の募集

募集は、例年4月頃から開始しており、次回表彰の募集については、詳細が決まり次第、福岡県NPO・ボランティアセンターのHP等でご案内する予定です。

なお、表彰された取り組みは、県のHPや各種広報媒体を通じ、広く県民の皆様にご紹介いたします。

自薦、他薦を問わず受け付けておりますので、皆様奮ってご応募ください。



聞こえないってどんなこと ～手話で楽しくコミュニケーション

聴覚障がい児・者は家族の中で一人だけ聞こえないという場合が多い。家庭の中でも、社会に出てからも、聴者が多数という状況の中で過ごしていく際に、疎外感や様々な課題を感じているという現状がある。

そこで、NPO、学校、行政が協働し、聴覚障がいについての理解・啓発に関する様々な取組みを通して、聴覚障がい児・者やその家族の支援を実施している。

聴覚障がいの疑いのある新生児とその保護者への早期支援、乳幼児から大人まで参加できる手話教室、青年聴覚障がい者の交流会等、当事者の成長段階に応じた切れ目のない支援を行っている。

また、聴覚障がい児と関わる教員や療育関係者、保護者等を対象に、教育や療育、育児について学ぶ連続講座を実施し、関係者間での聴覚障がいへの理解を深めている。そのほか、手話をテーマにしたイベントを開催し、多くの人が気軽に手話に触れられる機会を提供することで、広く聴覚障がいについての啓発を行い、聴覚障がいを持つ人々が住みやすい地域づくりを目指している。



「連続講座」聞こえない子ども達の発達や心理、支援方法について学びます。



「家族手話教室」乳幼児期から家族での手話環境作りをお手伝いします。



「わくわく手話まつり」市民の皆さんに手話の楽しさ、素晴らしさを発信します。

団体名

[NPO] 聴覚障害教育支援NPO法人言葉の森くるめ
企画・運営

[学 校] 福岡県立久留米聴覚特別支援学校
場所の提供、広報、取組への意見提示

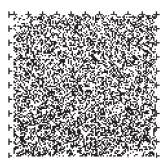
[行 政] 久留米市
新生児の保護者への取組の周知、資金助成、
啓発・広報、講座・手話教室への手話通訳専門者の派遣

読者への メッセージ

私たちは、聴覚障がい児の将来の自立と幸せを願い関係機関と連携しながら活動しています。子ども達が多様な「もの」や「人」と出会い、関わり、考え、伝え合い、「自分」を発揮してくれることを願っています。

聴覚障害教育支援NPO法人
言葉の森くるめ
理事長

山崎 佳都子さん



お 問 い
合 わ せ 先

聴覚障害教育支援NPO法人言葉の森くるめ

〒830-0037 久留米市諏訪野町2546-3-1005

TEL : 080-4278-5468

URL : <http://kotobanomori.main.jp/index.html>

筑後地域における文化振興 「九州クリエイターズマーケット」

身近な芸術文化活動にふれあい、豊かな心を育むため、九州初の取組みとなる九州クリエイターズマーケットは、山門青年会議所が中心となって企画・運営し、芸術の森デザイン会議が専門分野のノウハウを提供する形でスタートした。これまで計13回実施され、最高来場者数は約2万人に及んでいる。

現在では、芸術の森デザイン会議が企画力・運営力を、山門青年会議所は機動力・発信力を担い、モノづくりに興味のある市民とクリエイターが気軽に直接交流できる機会などを創出している。その結果、出展数の拡大や、クリエイターズカフェ、モデルハウスを利用したワークショップなど企業とクリエイターとのマッチングにより新たな事業が生まれ、クリエイターの作品の販路拡大にも繋がっている。

今後も、それぞれの強みを活かした協働により、筑後地域を巻き込む形で地域のクリエイター支援やモノづくり・芸術文化活動の振興を目指している。



開会式典には地元の県議会議員、市長、観光協会、山門青年会議所、法人の両理事長が出席しました。



(右)ワークショップはモノづくりの根幹出展クリエイター万華鏡KAZU(林和子)氏
(左)ブースの配置割を委員会で濃密に選考



無限の広がりを持つ「モノづくり」カラリズムリサ氏のライブアートパフォーマンス

団体名

[NPO] 特定非営利活動法人芸術の森デザイン会議

企画・運営、出展作品の審査

[団体] 一般社団法人山門青年会議所

企画・運営への助言、広報、当日ボランティア

読者への メッセージ

私達、特定非営利活動法人芸術の森デザイン会議は、2005年に設立し、芸術文化活動を通して、地域の活性化を目指す団体として、15年間地域に根差して、町おこしをしてきました。多方面との連携でたくさんの芸術文化を発掘し、成果を上げることが出来ました。

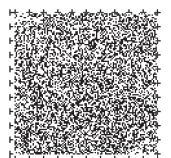
特定非営利活動法人
芸術の森デザイン会議
代表 理事長
津留 誠一さん



お問い合わせ先

特定非営利活動法人芸術の森デザイン会議

〒834-0123 八女郡広川町大字藤田999-2
TEL : 0942-52-8063
URL : <http://afdn9.com/main/>



不登校や子育てに悩む保護者支援“Omimi”事業

近年、不登校児童・生徒は増加の一途をたどっており、学校や担当教諭との関係、さらには子どもとのコミュニケーションがうまくいかないなど、保護者が悩みを深刻化させているケースがある。

そこで、NPOが中心となり、子どもの不登校や子育てに悩む保護者の支援を行っている。

月2回開催する「Omimiカフェ」では、子どもの不登校・行き渋りや発達障がいなど、不安を抱える保護者同士が安心して悩みを相談できる場となっている。そのほか、子どもの居場所づくり事業「ハレハレ～hare＊hale～子どもの居場所」や、保護者同士が交流するワークショップ「えがおのたまり場」等、様々な取り組みを実施している。

また、教員等を対象とした不登校支援に関する講演や、保護者の気持ちに寄り添い、共感して伴走者となれる人材を育てるサポーター養成講座を実施しており、地域における保護者支援の輪を広げている。



「えがおのたまり場」保護者同士が得意分野を活かし講師となり交流するワークショップ



「不登校Omimiサポーター養成講座」不安な心に寄り添う伴走者としての心得を学びます。



「朝倉地区と福岡地区の親子交流会」同じ悩みを持つ親子同士が陶芸体験を通して交流します。

団体名

[NPO] えがおの会

企画・運営

[団体] 小倉東地区自治会

場所の提供

一般財団法人九電みらい財団

一般財団法人グリーンコープ生協ふくおか福祉活動組合員基金

資金助成、広報

[行政] 春日市人権男女共同参画課

場所の提供

春日市教育委員会

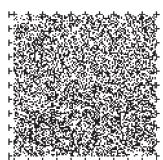
学校との連携、広報

読者へのメッセージ

「自分の子育ては間違っていたのか？」と悩んでいるお母さん、あなたは間違っていない。ただ…自分のものさしで子どもを見ているだけです。子どものそのままを受け止める練習をしませんか？私たちが伴走者になります。

えがおの会
代表

杉浦 しのぶさん



お問い合わせ先

えがおの会

〒816-0845 春日市白水ヶ丘3-122-1

TEL：090-4513-7531

URL： <https://www.facebook.com/egaonokai/>

コワーキングスペースの創出で 商店街をつながる居場所に！

若者が気軽に集まれる場や、活躍の機会が不足する古賀市において、JR古賀駅に近い商店街の空き店舗を改装し、起業支援、若者の活動支援の拠点としてのコワーキングスペース「CREATE SPACE MIRACO（クリエイトスペース・ミラコ）」を開設した。

NPOの学生プロジェクトが中心となり、地元建築業者の指導や、専門学校生の作業協力、地元企業からの資材提供等、多数の協力を得て自分たちの手で改装を行った。また、学生プロジェクトは、古賀の特産品「あまおう」を使った「たびこ」や「SHRIMI（しゅりみ）」の商品開発や、地元ものづくり企業のPR映像制作等、地域活性化に向けた取組みも行っている。

CS MIRACO内にはコワーキングスペースのほかに、シェアキッチン、カフェ等が併設され、異業種交流会やワークショップ、セミナー等で地域住民を中心に、個人・団体問わず幅広く活用されている。現在では、事業者や起業家、学生など、様々な立場の人々がつながる居場所となり、まちの新たな賑わいの創出を目指している。



クラウドファンディングに挑戦！
拠点作りのためにたくさんの方の協力で達成



古賀の特産「あまおう」を使って、
学生と一緒に商品開発 軽トラ市で販売



企業・学校・市民・学生と力を合わせて拠点完成
異業種交流会と学び開催

団体名

[NPO] 一般社団法人こがみらい

企画・運営

[学校] 麻生建築&デザイン専門学校

改装作業のボランティア協力

[企業] 株式会社デザインネットワークアソシエイツ

有限会社ウィーンズホーム

株式会社ナダヨシ

頂味本舗

くまや蒲鉾株式会社

コワーキングスペース開設や商品開発等への協力

読者への メッセージ

まちづくりの拠点として学生はじめ、企業・団体・市民の方々と協力して創りました。

これからたくさんの方々に利用していただきながら、語り合う場、創造する場、出会う場としてここから何か生み出していける場としていきたいと思っています。

一般社団法人
こがみらい
代表理事

魚谷 千代子さん



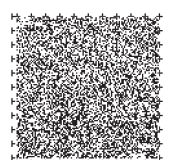
お問い合わせ先

一般社団法人こがみらい

〒811-3101 古賀市天神1-12-25

TEL：090-7440-5708

URL： <https://kogamirai.com/>



学校に行きづらい子・社会に出づらい人の自立支援

学校に行きづらく、ひとりで思い悩んでいる子どもたちやその保護者は多く、地域が一体となって支援する必要がある。そこで、NPO、地域コミュニティ、行政が協働し、フリースクールを中心とした活動を通して、子どもの自立支援に向けた取り組みを実施している。

中学校卒業時には、子どもたちが自分で選んだ進路に自分の力で歩いていけるよう、子どもたち一人ひとりと向き合いながら、フリースクールでの学習支援や体験活動を通して、自己肯定感を育んでいる。今年度はコロナ禍で19名の利用者を、毎日甘木・杷木・東峰村に分散して、支援をしている。経済的教育格差を避けるため、保護者負担は求めている。

出席状況の共有や学習方針に関する意見交換を行うため、当該小中学校と毎月連絡会を実施するなど、NPOと教育委員会・学校が密に連携しており、子どもたちはフリースクールに来ることで、学校での「出席扱い」となっている。

当事者だけでなく、現場の教職員や地域住民を対象とした、不登校に関する学習会・講演会を年6回開催することで、悩みを抱える子どもたちのことを正しく理解し、地域全体で子どもたちを育てる意識づくりを行っている。



学習支援は、原則としてマンツーマン・個別のカリキュラムで行います。



体験学習の一つ・食の自立を目的に月1回程度、調理実習と会食を行います。



学習会では、“ひとりで悩まないで”をテーマに、子どもたちにどう寄り添うかを学んでいます。

団体名

[NPO] 特定非営利活動法人 フリースペース よつば

企画、運営、広報・啓発

[団体] 久喜宮地域コミュニティ協議会

場所の提供、広報・啓発

[行政] 東峰村教育委員会

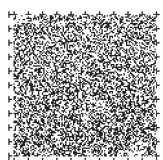
場所の提供、広報・啓発



他機関と連携し、子どもたちが輝ける居場所作りを行っています。年6回の学習会は、悩む保護者の共有の場にもなっています。自分で決めた進路で元気に頑張っている子どもたちの姿に、居場所を見つけたんだとうれしくなります。

特定非営利活動法人
フリースペース よつば
代表

石川 千恵さん



お問い合わせ先

特定非営利活動法人 フリースペース よつば

〒838-1514 朝倉市杷木久喜宮1508-2

TEL : 090-4581-4239

MAIL : tekohira@yahoo.co.jp

選考委員の皆さんにお話を伺いました。

選考委員	鳥丸 聡	委員長：シンクタンク・バードウィング 代表／長崎県立大学地域創造学部 教授
	林田 スマ	委員：大野城まどかぴあ館長
	藤本 玲	委員：福岡経済同友会 事務局次長
	森田 昌嗣	委員：九州大学 名誉教授
	本田 航二	委員：福岡県人づくり・県民生活部副理事兼社会活動推進課長

今年度の受賞取組について



社会貢献性、創意性などの5つの基準をもとに選考された5件の取組みの特徴は、協働を構成した団体の顔ぶれが多彩であること、また取組みの分野も生活者支援、空き店舗活用、地域文化振興など多岐にわたっていることが挙げられます。

森田委員

今回、惜しくも受賞につながらなかった取組について



今回、残念ながら受賞に繋がらなかった活動は、取組期間が短いもの、協働範囲が限定的なものなど、今後発展が期待できるものがありました。ご応募いただいた活動は、その全てが地域課題や社会課題の解決に必要な取組みです。今後の更なる発展に期待しています。

藤本委員

県内で活動されているNPO・ボランティア団体の皆様へ



地域課題は多様化しており、その解決のためには連携の強化が求められます。行政や企業ともにNPO・ボランティア団体のみなさんの活動の輪が新しい福岡の共助社会の源です。生き活きとその活動の芽を伸ばし合ってください。

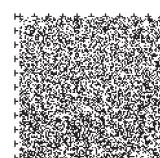
林田委員

コロナ禍における「共助社会づくり」について



表彰された取組みを見ますと、教育から文化、福祉とその内容は多様です。いずれの活動も、行政が直接関与しようと思っても現場の事情が良く分からず、企業が直接関与しようと思っても利益を生みにくい活動です。コロナ禍で自助と公助の隙間を埋める共助社会にますます期待が高まります。

鳥丸委員長



協働をはじめよう！

少子・高齢化の進展や県民意識の多様化に伴い、一層、複雑化・多様化する地域課題の解決のために、協働は有効な手段です。しかし、「やってみたいけど難しそう」「始めたものの、うまくいかない」というケースも多いのではないのでしょうか。

ここではより効果的な協働を行うためのポイントを紹介します。

協働で大切なこと

異なるミッションや文化を持つ組織同士で事業を行うことは、なかなか大変です。

協働で成果を出すには、相手と対等な信頼関係を築きつつ、協働のプロセス全体を意識しながら、事業を計画・実施することが大切です。

協働に挑戦しよう！

協働を始める準備から事業終了後まで、協働のプロセスを5段階に整理しました。

協働を始めるか迷っている方、始めたものの行き詰っている方、過去に失敗してしまった方も、この機会にポイントを見直して、ぜひ協働にチャレンジしてみてください！

県には皆さんの協働事業を後押しする助成事業（※ふくおか地域貢献活動サポート事業）があり、市町村によっては補助金制度もあります。困ったことがあれば、福岡県NPO・ボランティアセンターに相談することもできますので、ぜひ活用してください。

① 協働の準備と心構え

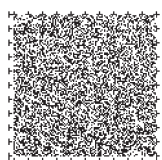
- ① 受益者と課題を特定する
- ② 「体力診断」をする
- ③ 事業の成果を設定する

- ①活動の受益者（困っている人、支援を必要としている人）はどんな人で、何に困っているのか？その原因となる問題は、どうすれば解消されるのか？こうした活動目的の明確化が大切です。
- ②課題に対して、自分たちは何をどこまでやれるのか？できないことは何か？スキルやノウハウ、資金、人員など自組織の体力診断をすることで、誰と、どのように協働する必要があるのかが見えてきます。
- ③協働した結果、誰のどんな状況がどう変化するのか？より具体的な数値や成果指標を考えておくと、各事業段階で何をすべきか、判断しやすくなります。

② 協働の相手を探し提案する

- ① 協働の相手を探す
- ② 相手の取組について調べ提案する

事前に課題に関するデータや統計、相手の事業計画や最近の活動を調べ、互いがどのように力を発揮して協働すれば課題解決に近づくのか、ある程度事業内容を考えておくことも必要です。相手とじっくり協議するつもりで、提案の工夫をしましょう。



③ 事業計画をつくる

- ① 課題、目標、成果を設定する
- ② スケジュールとタスクの整理、役割分担

- ① 第三者の意見を取入れたり、他の協働事例を参考にしたりすると、客観的に自分たちの事業の実現性や意義を検討することができます。
- ② 「事業全体のスケジュール」「業務タスク（仕事内容、量、質）の棚卸し」「互いのできることの整理と分担」を、相手と一緒に考え、共有することが大切です。

④ 事業を実施、継続する

- ① 意思決定の手順を確認する
- ② 定期的なふりかえりと引き継ぎ

- ① まずは相手の意思決定の文化と手順を知るところから始め、お互いの言葉の意味や事業の進め方を確認し合いながら取り組みましょう。
- ② 当初の目的からずれていないか、進捗だけでなく、互いにミッションや達成度を確認し、必要があれば事業の進め方、役割分担などの変更・見直しを行いましょう。また担当が変わっても慌てないよう書類は日頃から整えておきましょう。

⑤ 生まれた成果や活動基盤の活用、継続、発展

ふくおか地域貢献活動サポート事業

ふくおか地域貢献活動サポート事業は、民間からの寄附を活用して、NPO等が行政、地域コミュニティ、企業などの多様な主体と協働して、地域課題の解決に取り組む社会貢献活動に対して支援（助成）するものです。

◆ 募集する事業

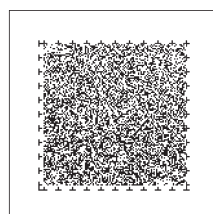
NPO等が、市町村や地域コミュニティ、企業などの多様な主体と協働し、地域課題の解決にあたる福岡県内で実施する事業

自由提案型 自由で先進的な発想や専門的なノウハウ等を活かした公益性の高い事業

テーマ型 寄附者の意向により設定されたテーマに沿った事業

▶ 詳しくはこちら

<https://www.kifu.pref.fukuoka.lg.jp/>





福岡県

お問い合わせ / アクセス

福岡県 NPO・ボランティアセンター

- 住 所** 〒812-0046
福岡市博多区吉塚本町 13 番 50 号 福岡県吉塚合同庁舎 5F
- 連絡先** TEL 092-631-4411 FAX 092-631-4413
Mail nvc@pref.fukuoka.lg.jp
- アクセス** ① JR「吉塚」駅より徒歩約 3 分
② 西鉄バス「吉塚駅前」バス停より徒歩約 3 分
③ 福岡市営地下鉄「馬出九大病院前」より徒歩約 10 分
- ホームページ** <https://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/>

福岡県 NPO

検索

